

「ぐんま方式」の学級編制により、たくましく生きる力をはぐくむ



平成29年度 ぐんま少人数クラスプロジェクトの充実



1 趣 旨

少人数学級編制や少人数指導を中心に、児童生徒の発達の段階に応じた指導体制を充実させることにより、基本的な学習習慣や生活習慣の確立を図り、基礎学力の定着を目指す。

2 方 針

<(1) さくらプラン>

小学校第1・2学年における30人以下学級編制の実施

小学校第3・4学年における35人以下学級編制の実施

⇒ 発達の段階に応じたきめ細かな指導体制を充実させることにより、児童の基礎学力の定着や社会性の育成を図る。

<(2) わかばプラン>

中学校第1学年における35人以下学級編制の実施

⇒ 学校生活に適應するための支援体制を強化するとともに、一人一人へのきめ細かな指導を充実させることにより、基礎学力の向上を図る。

<(3) 英語教育アドバイザー教員（EAT）>

小学校における英語教育の推進

⇒ 小学校英語の授業や指導計画等のモデルを普及・啓発することを通して、教員の指導力及び児童の英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

<(4) 学力向上のための特配教員の活用>

各学校の経営構想に基づいた学力向上対策の推進

- ⇒ ・ 少人数学級編制を基盤とし、きめ細かな指導の方法や体制を工夫改善して学力の向上を図る。
- ・ 各学校の学力向上委員会を機能させ、学力向上コーディネーターを中心に特配教員等を活用しながら、学力向上対策を推進する。

<学力向上のための特配教員の活用方法>

- 「小学校高学年における教科担当制」及び「小学校における英語教育」の推進
- 少人数指導やティーム・ティーチングなど、習熟の状況に応じたきめ細かな指導の充実

3 内 容（ぐんま少人数クラスプロジェクトの全体像）

校種	学 年	内 容	H29年度配置数	県(内数)
小 学 校	第1学年	さくらプラン 30人以下学級編制	75校 75人	(18人)
	第2学年		128校 130人	(39人)
	第3学年	さくらプラン 35人以下学級編制	55校 55人	(55人)
	第4学年		56校 56人	(56人)
	第5学年	← 英語教育アドバイザー教員（EAT） 10校 10人(県10人)	← 学力向上のための特配教員（小学校） 242校 319人	
	第6学年			
中 学 校	第1学年	わかばプラン 35人以下学級編制	60校 86人	(86人)
	第2・3学年	← 学力向上のための特配教員（中学校） 142校 233人		

平成29年度予算額（県単）

さくらプラン… 818,850千円

英語教育アドバイザー教員（EAT）…51,500千円

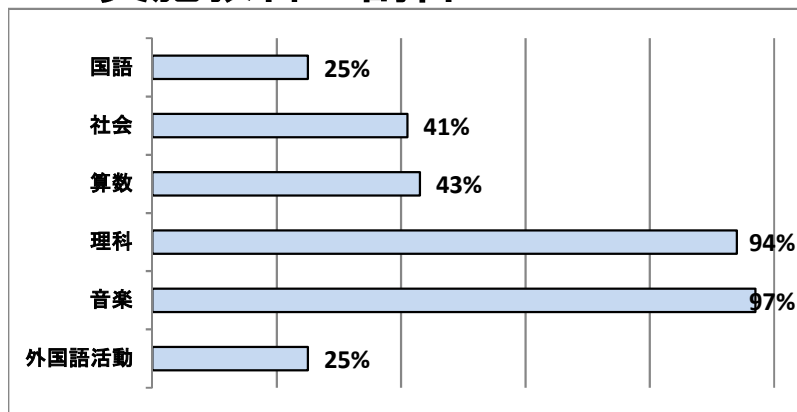
わかばプラン… 545,900千円

合計…1,416,250千円

小学校高学年における教科担当制について

学力向上特配教員による教科担当制を実施している学校の調査結果は以下のとおりです。

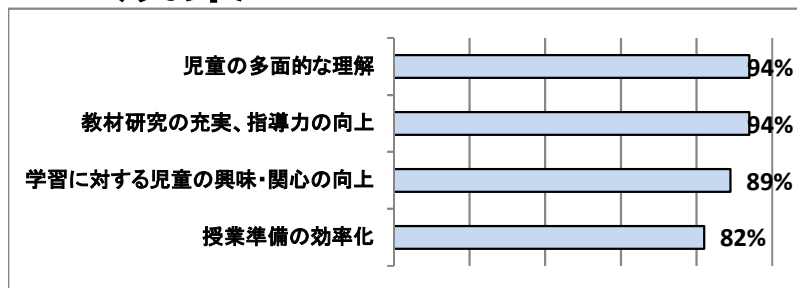
1 実施教科の割合



【実施教科の拡充】

- 国語や外国語活動は、他教科と比べると実施割合が低い傾向にあります。
- 算数においては、全体のおよ半数程度の学校が実施しています。
- 教科担当制の実施により、全国学力学習状況調査等の結果から多くの学校で学力向上が見られています。

2 成果



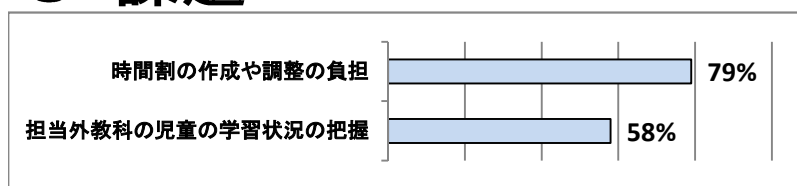
【児童の多面的理解】

- 複数の教員が意図的に児童と関わることができ、児童を多面的に捉え、よさを伸ばすことができています。

【教員の指導力育成と児童の学力向上】

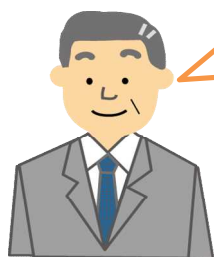
- 教材研究を十分に行うことができ、また、授業の機会が増えることで、各教員の指導上の課題を解決するなど、指導力の育成につながっています。
- 得意分野や専門性を生かして、工夫した授業が行われていることが、児童の学習意欲を高めることにつながっています。

3 課題



【組織的な校内体制作り】

- 時間割の作成や出張等への対応など、教科担当制を実施するための体制作りが必要です。
- 担当する児童の学習状況等、きめ細かに把握するための組織的な取組が重要です。



本校では、昨年度、国語で教科担当制を実施しました。年度当初は作文指導等で先生方も不安そうでしたが、担当教科を限定することで、教材研究が充実し、自信をもって授業に取り組めていました。また、空き時間等を利用し、先生方同士で情報交換をする中で、担任する児童の新たな一面を知ることができ学級経営に生かしていました。

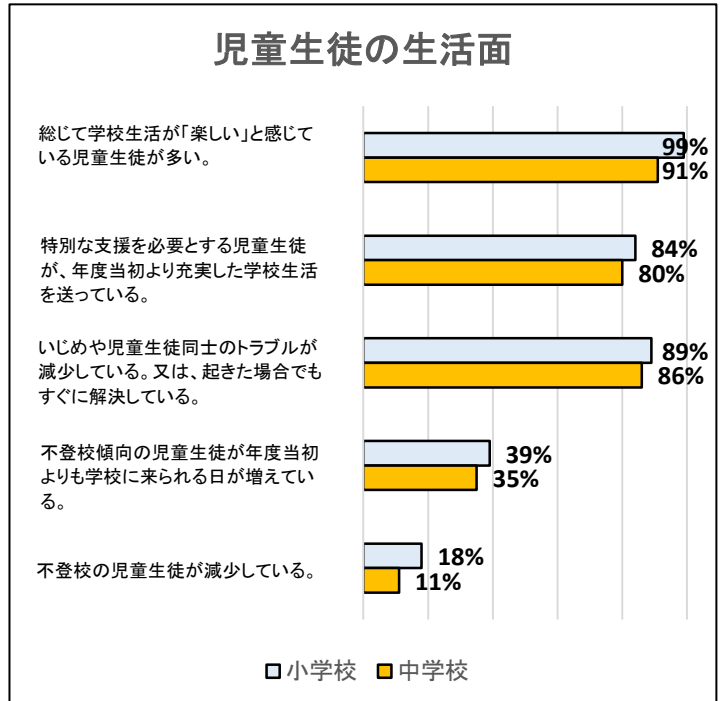
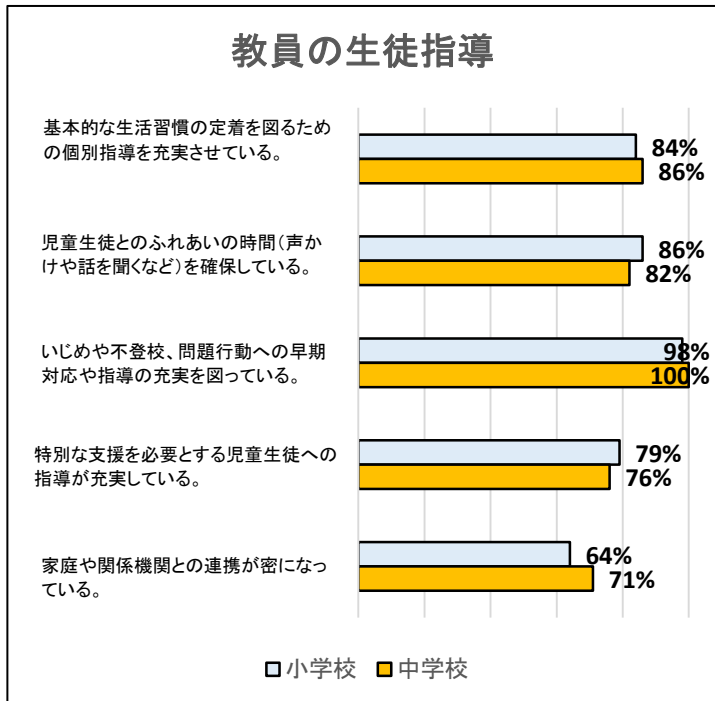
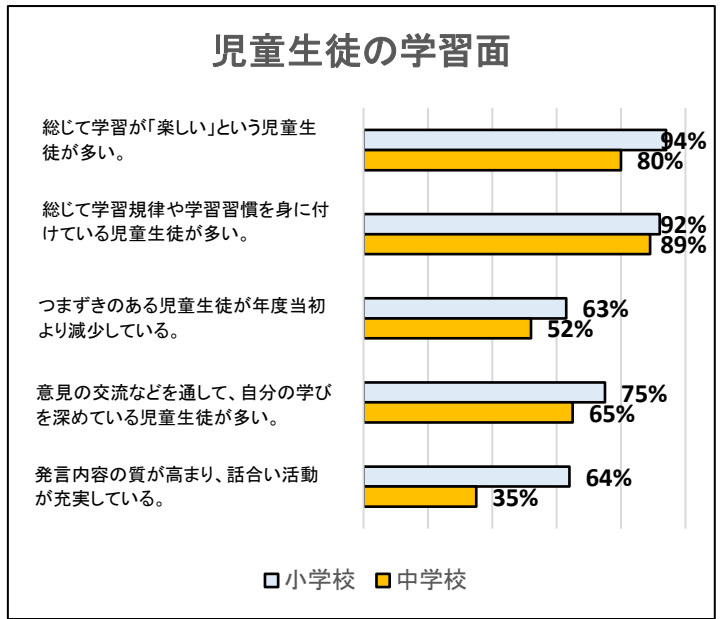
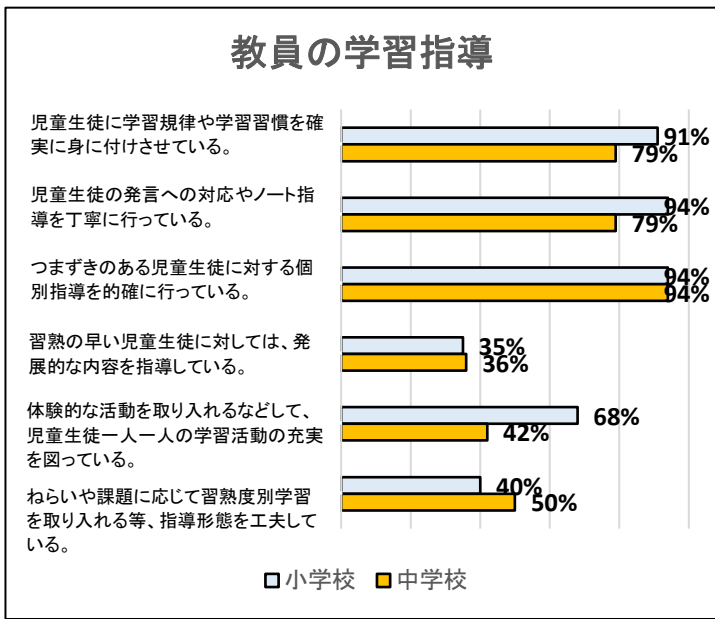
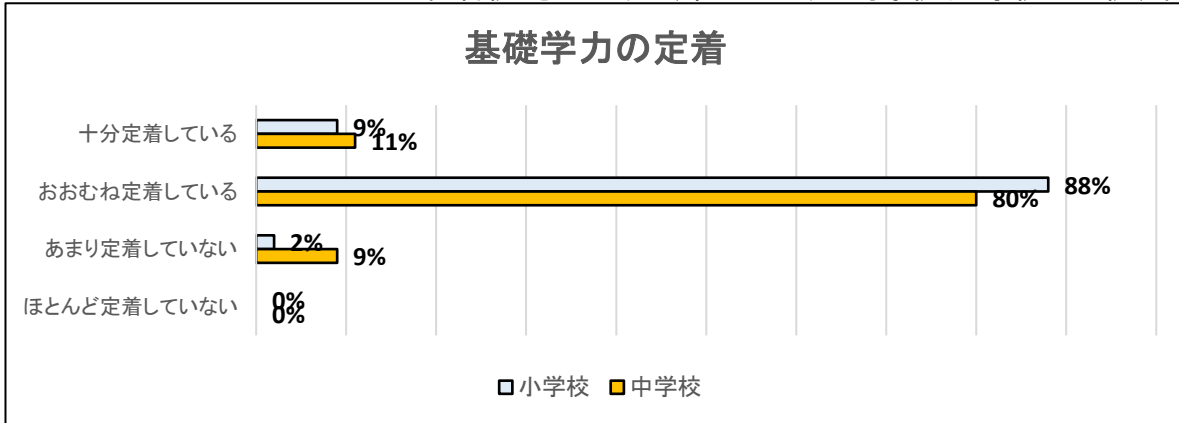
今年度は、次期学習指導要領を見据えて、外国語活動でも教科担当制を取り入れていきたいと考えています。

小学校5年生における学力向上特配教員Bや英語教育推進のための英語教育アドバイザー教員を配置することで教科担当制を更に推進していきます。

I さくらプラン・わかばプランについて

【配置割合】小1:28% 小2:39% 小3:17% 小4:16% 中1:41%

回答校: さくらプラン、わかばプラン対象校(小学校173校、中学校66校)

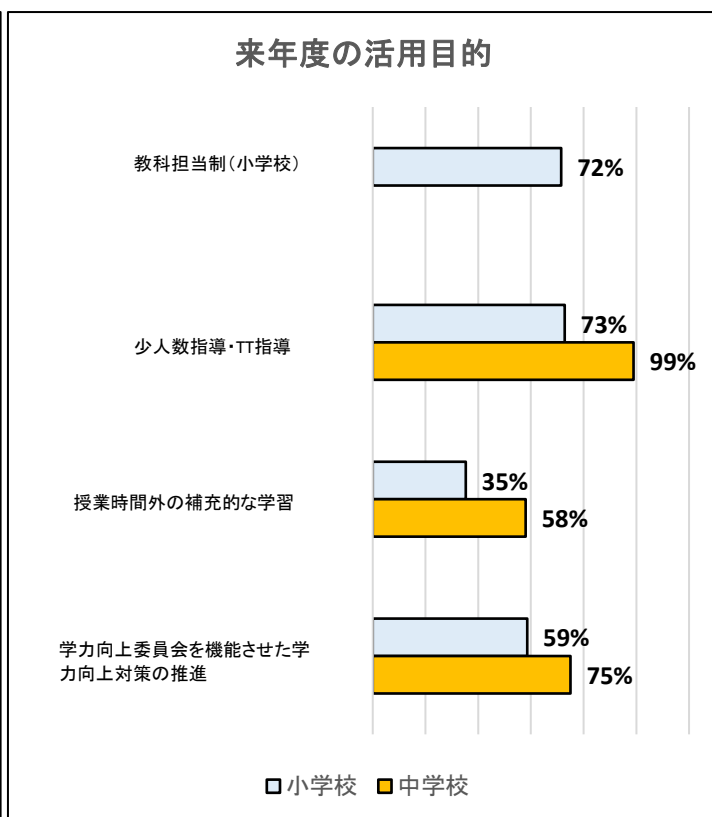
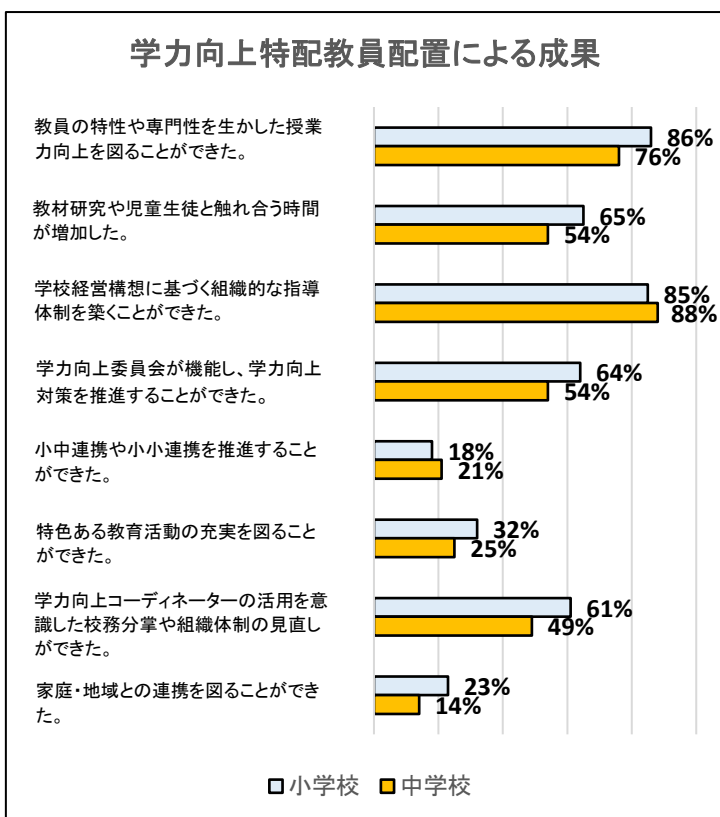
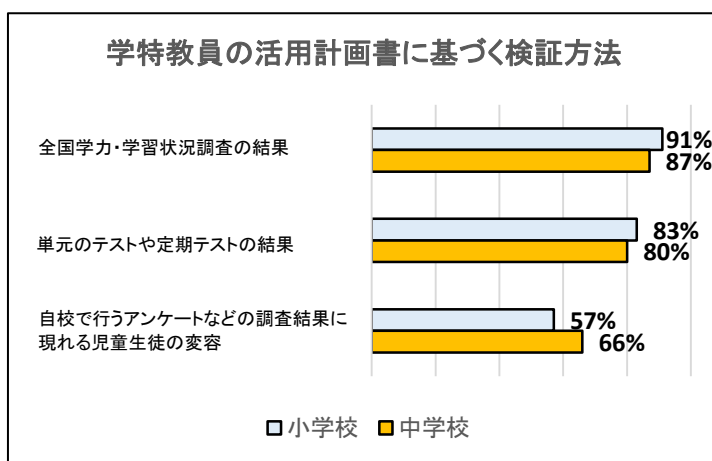
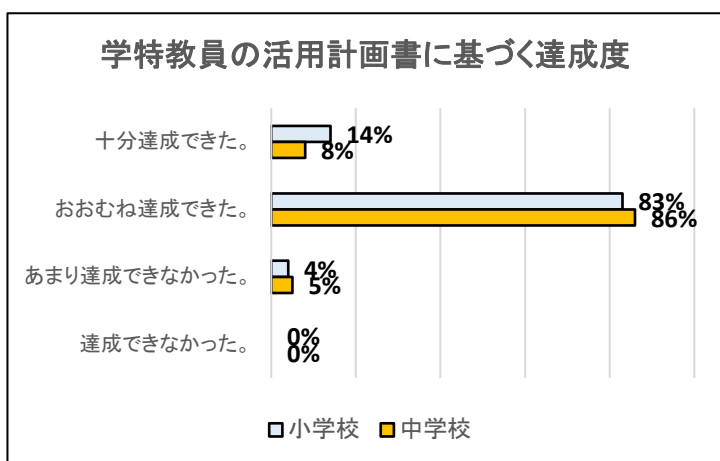
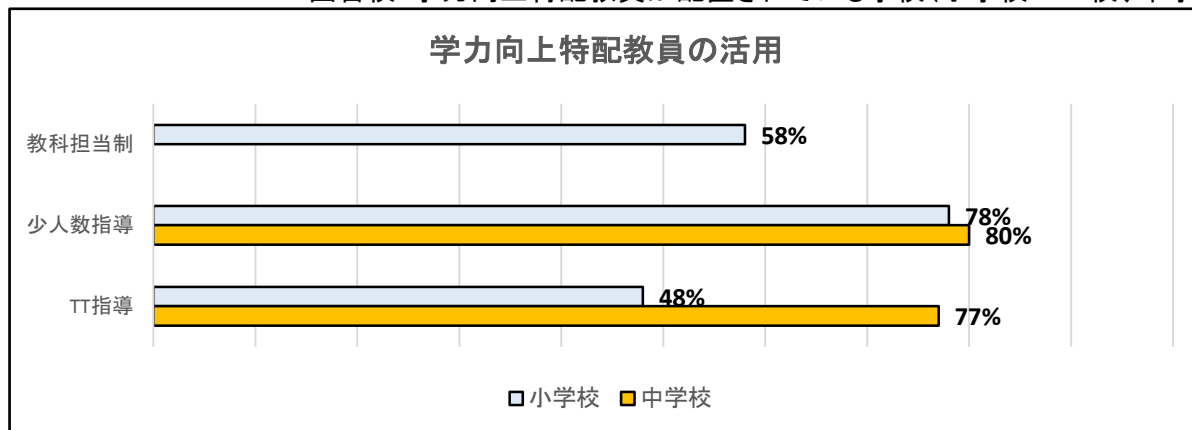


Ⅱ 学力向上特配について

小学校 1人配置:64% 2人配置:16% 3人配置:2%

中学校 1人配置:40% 2人配置:39% 3人配置:9%

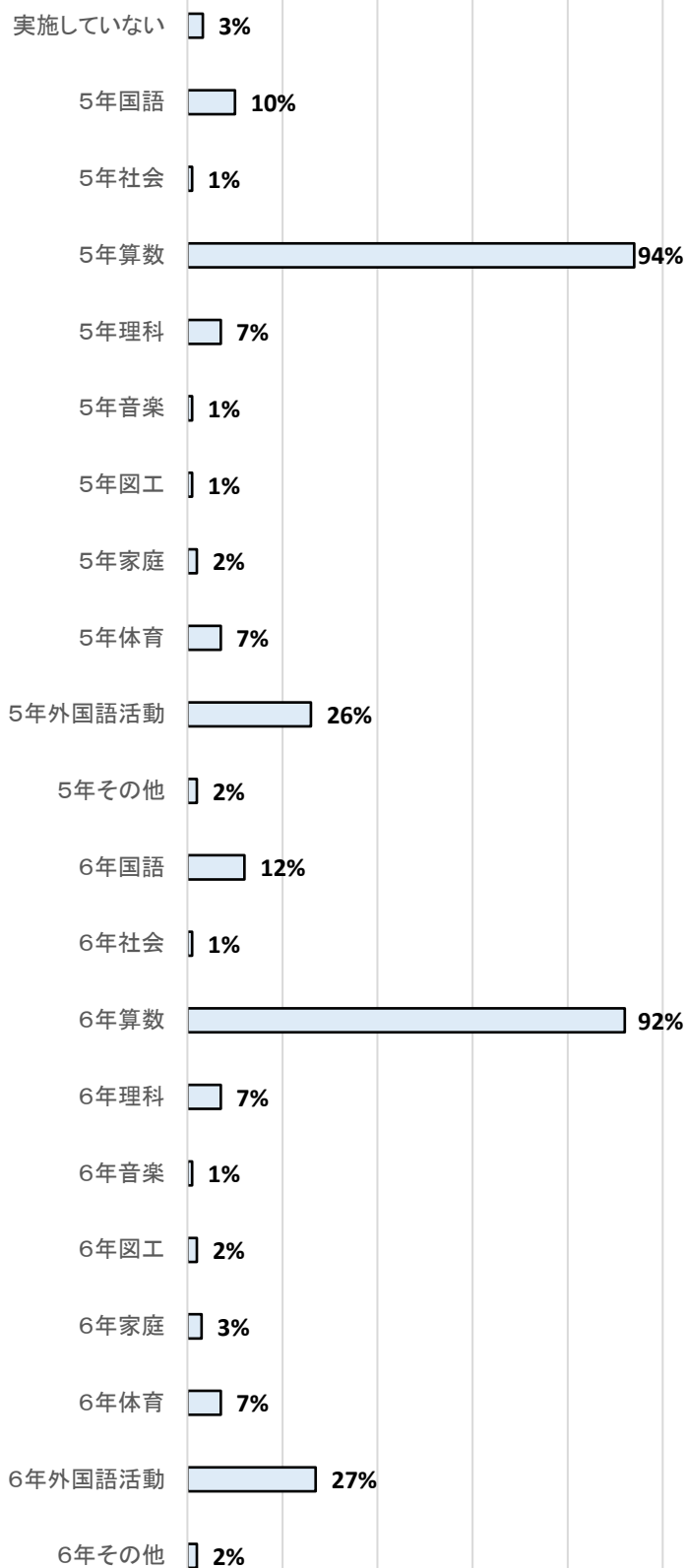
回答校:学力向上特配教員が配置されている学校(小学校246校、中学校142校)



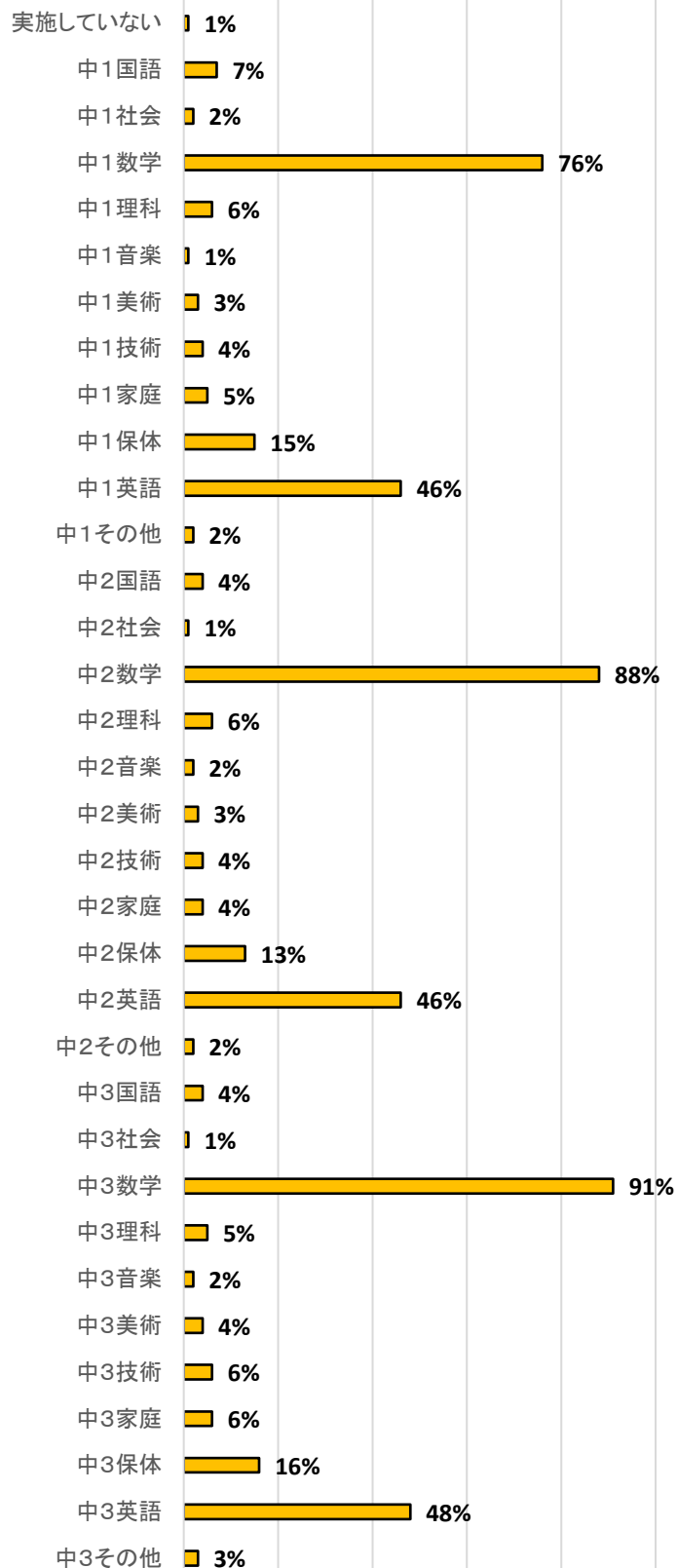
Ⅲ 学力向上対策について

回答校: 全県小・中学校(小学校309校、中学校160校)

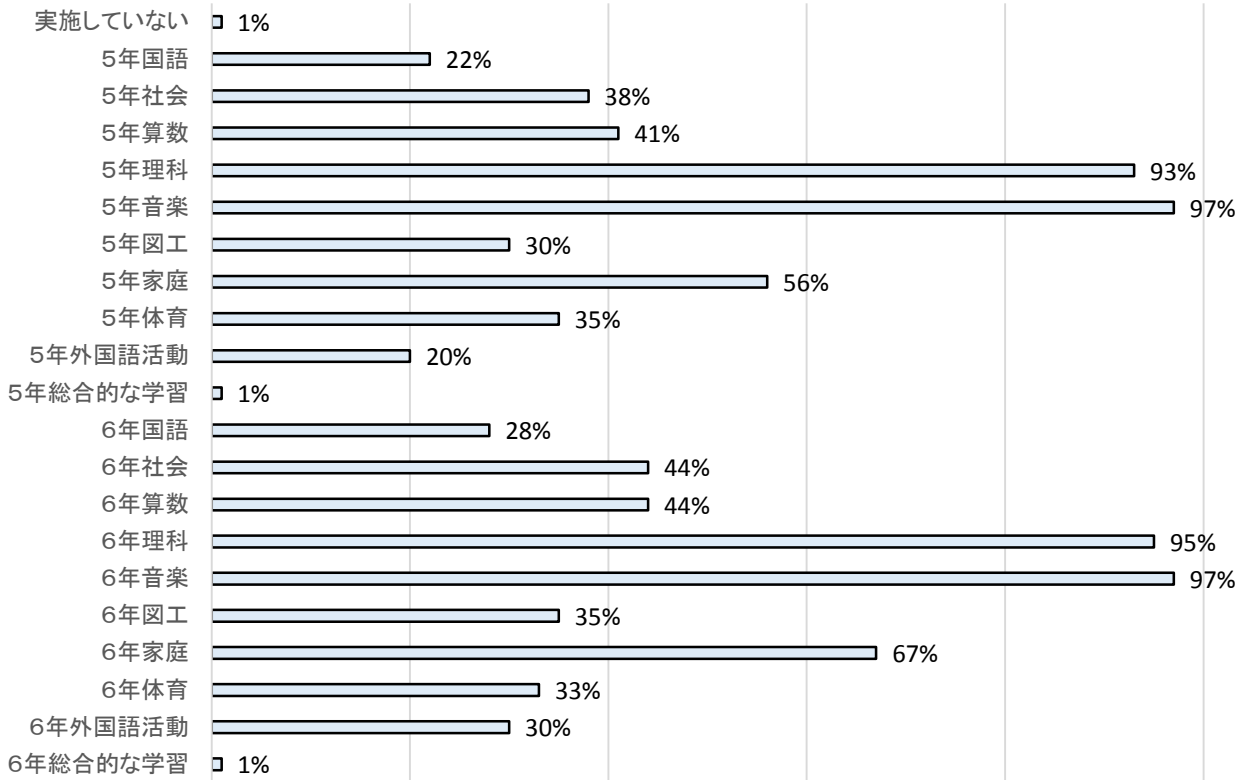
少人数指導・TT指導の実施教科 (小学校)



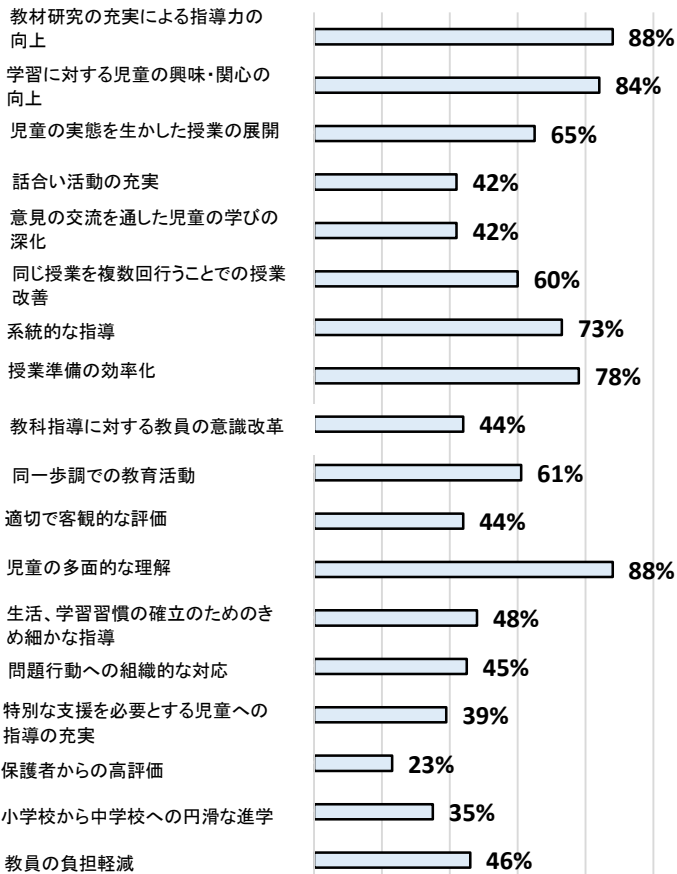
少人数指導・TT指導の実施教科 (中学校)



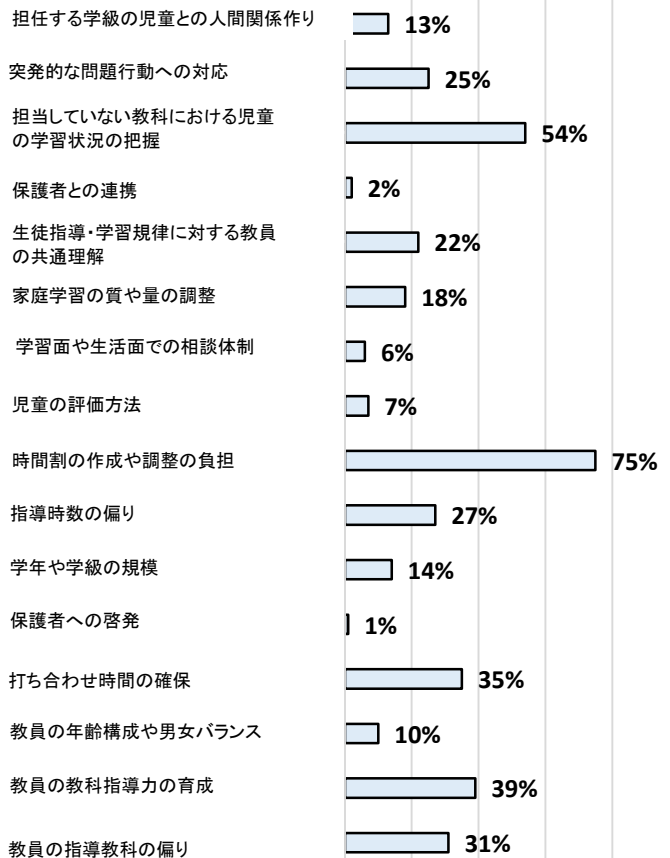
小学校高学年における教科担当制実施教科



教科担当制の実施による成果

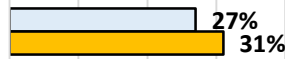


教科担当制における実施上の課題



学力向上コーディネーターの取組状況

様々な教科や学年の授業にTTに関わったり、参観を進めたりしている。



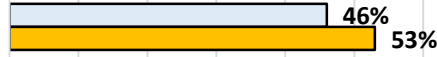
宿題などの家庭学習の効果的な取組について、家庭と連携を図りながら企画・推進している。



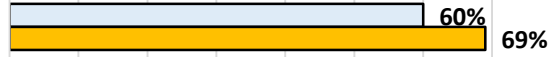
全校で取り組めるような学習規律の確立を進めている。



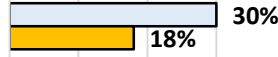
授業時間以外における補充学習の充実を図っている。



授業づくりや評価の工夫など、教科や学年の枠を越えた指導のあり方について企画・推進している。



習熟の早い児童生徒への課題の工夫など、学習状況に応じた指導の充実を推進している。



打合せや会議などの設定を効率的に計画している。



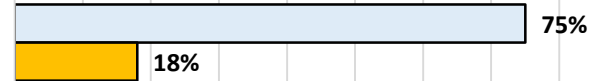
□ 小学校 ■ 中学校

IV その他

回答校: 全県小・中学校(小学校309校、中学校160校)

ぐんま少人数クラスプロジェクトへの要望

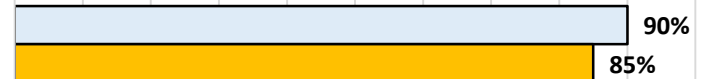
さくらプランを第5学年・第6学年まで拡充(小学校第5・6学年での35人以下学級)



わかばプランを第2学年・第3学年まで拡充(中学校全学年での35人以下学級)



学力向上特配教員の増員



□ 小学校 ■ 中学校